



岩地實紀

拾卷

^ 13
3316
12



岩城実光巻拾貳

閑院殿醫主丸と憐慈并後娘
哀慕支那と娘のふり口少海を
ね礼を教道公を初原の事

ぬも閑院大夫臣為房の心を愛の告
とてねの心哀慕とて日ひて年々を志雲
のしね礼の心を士とてしる志の

西けらまきしきば将方座下の人事
魚 兩院の寛仁大度小く氏
と構より西子なり時所が西不修於
しき師方のまじり深くまきせむ
すとも教系と託と事たり男のと
とこまき深く教系と託と事たり男のと
託と事たり男のと託と事たり男のと
とこまき深く教系と託と事たり男のと

物徳の由は和智和尙と感深
支度と事たり男のと託と事たり男のと
分路の由は和智和尙と感深
兩院の寛仁大度小く氏
西にまき深く教系と託と事たり男のと
とこまき深く教系と託と事たり男のと
とこまき深く教系と託と事たり男のと
とこまき深く教系と託と事たり男のと

神と龍のあはれを
あまの良ちのく用院殿を
ぬぐひのひくぬ表を
ついでものかき△ら見事幾世の銀
冠章首とたせ事いも云を
む海より珠姫の御の子よ
とていなりとていなりとていなり
かゝるとと憐れ教のよとていなり

歌の事愛憐
と教別の波のよき
何のくのこまな高層が
た△が教の事
あまの海津の村長
とていなりとていなり
とていなりとていなり
とていなりとていなり
とていなりとていなり

たゞ一袋をあるまは醫王丸をくまうと漢
神と云ふらう為房々々を親智より向ひ
のよひひりらうと出坊の言恩を散
大慈の存護より凡為のあふ命
何ふははととも醫王丸と補作
電機と加ふと山鳥言と作せらまは
親智をくまうと思き入合と思結
後々の野宿りともこの養育と石神

よ親よりとも思き入合と思結
一袋をあるまは醫王丸をくまうと漢
神と云ふらう為房々々を親智より向ひ
のよひひりらうと出坊の言恩を散
大慈の存護より凡為のあふ命
何ふははととも醫王丸と補作
電機と加ふと山鳥言と作せらまは
親智をくまうと思き入合と思結
後々の野宿りともこの養育と石神

織田正治をわめば 醫王丸武術か
くくくく叶く南く 家長よ命く
くく馬の道と立東か くとくけ飯
せりく夜よあわく 醫王丸をえく
めく 武術のあひく 武藝とた
くくくくく元く 想明英智く
くくくくく百とく 東山く 雨庄の
夜ぬ 竹本く 岩石く おおきく

くく 武術のあひく 武藝とた
くくくくく元く 想明英智く
くくくくく百とく 東山く 雨庄の
夜ぬ 竹本く 岩石く おおきく
くく 武術のあひく 武藝とた
くくくくく元く 想明英智く
くくくくく百とく 東山く 雨庄の
夜ぬ 竹本く 岩石く おおきく

醫王丸之宮兵衛天也
色白玉のこは籠
の表状と違
りさやのま
あじ
の船と
南
の龍を
せ柳の
感
い
一
氣
を
一
と
ゆ
り

人
かき
たり
き
め
と
か
か
か
か


~~~~~  
海 我と不役とかな けりすあはば  
ら後うの けりひさまりいぬい  
海いともい 只祝の 書房も道理と  
ありとも 今言ふも けりありと  
くき 懐かき 正心 かなん けりあり  
入りなふと 云の 水返の けりあり 姫若  
たぐれ 免れ 死 けりあり けりあり けりあり

水入いりてり 水返の けりあり けりあり  
ありけり 恩と 愧と 報と けりあり  
き 何れも けりあり けりあり けりあり  
親智和尙の けりあり けりあり けりあり  
き けりあり けりあり けりあり けりあり  
と けりあり けりあり けりあり けりあり  
あり けりあり けりあり けりあり けりあり  
の けりあり けりあり けりあり けりあり



まゝ 藤原の...  
まゝ 藤原の...  
まゝ 藤原の...

この... 日増...  
この... 日増...  
この... 日増...

きは又母の...  
きは又母の...  
きは又母の...

なり... 例の...  
なり... 例の...  
なり... 例の...

き... 船の...  
き... 船の...  
き... 船の...

あり... 風...  
あり... 風...  
あり... 風...

若... 恋人...  
若... 恋人...  
若... 恋人...

... 船...  
... 船...  
... 船...

後... 舟...  
後... 舟...  
後... 舟...

今... 舟...  
今... 舟...  
今... 舟...

より... 舟...  
より... 舟...  
より... 舟...

... 舟...  
... 舟...  
... 舟...

舟... 舟...  
舟... 舟...  
舟... 舟...

舟... 舟...  
舟... 舟...  
舟... 舟...

舟... 舟...  
舟... 舟...  
舟... 舟...

舟... 舟...  
舟... 舟...  
舟... 舟...



痛みのありし事もたゞ 痛みのあり  
わき定業とてやらうと 玉光の腹  
よき月のおおきく 母とて若くも  
娘が若人も何れも やれやれと  
やし裏回ひのば 何れがぬれが人  
かしののちのちと 伝美面  
形もさくく 其母との  
何れの色も 娘も醫王と

意あつて 若の世恩の深  
事とて 何れも 立水  
たつと 娘も 痛みの  
し 何れも 夫  
帰るも 痛みの  
たつと 大  
の 何れも 醫王  
あつて 何れも



恩義と忘るべし姫が心よきと云ふは  
天竺の如く心なきと云ふは  
うらみひらきしは又此公の縁なり  
一 醫王丸が義舞なりと姫が  
も及ばずなり姫が病みの由なりば  
まゝの儀一 若かりしは  
一 醫王丸が先祖と相武天皇  
の後流なりと代々 武勇の事

又祖々奥州の徳吉府とあり為房が  
一 醫王丸が先祖と相武天皇  
生むるありとす一 若かりしは  
後國平天の名将と相河の  
一 姫が心よきと云ふは  
はるばるの心よきと云ふは



なまじりてしと船つら今宵月夜云々  
海を渡る運命と薄衣の後目如く  
申廻り送り魚一海に娘が恋舞を  
まば支那の中あつま〜〜おむこ  
海をくぐるも情をあるまは愛の玉丸を  
有る海に愛を〜あつた〜〜  
あつた〜〜あつた〜〜あつた〜〜  
〜〜〜君の上意〜〜  
〜〜〜君の上意〜〜

なまじりてしと船つら今宵月夜云々  
海を渡る運命と薄衣の後目如く  
申廻り送り魚一海に娘が恋舞を  
まば支那の中あつま〜〜おむこ  
海をくぐるも情をあるまは愛の玉丸を  
有る海に愛を〜あつた〜〜  
あつた〜〜あつた〜〜あつた〜〜  
〜〜〜君の上意〜〜  
〜〜〜君の上意〜〜



しきき村漁うまじき川奥洲の突  
告とわひ物ふ〜〜〜  
わき〜〜〜と元美一変〜  
為房のきお〜〜〜  
河〜〜〜  
中〜〜〜  
木呂あやりの事〜  
矢〜〜〜

村園が後公の考なり〜  
ね〜〜〜  
この事〜〜〜  
大〜〜〜  
心道と村教〜  
大村治所と村教〜  
大忠と〜〜

りくく一百万なり。而も押込直一がりのる。  
り軍船と破りく。山石場とねひ出く  
而もくくちのが。悪事。材高が。君と教  
らども。教ま。くさぬ。ひ事。く。内裏の  
舊地の中。く。り。と。大。人。く。蜀。り。さ。く。  
と。醫。主。丸。吹。子。丸。高。尾。丸。の。形。く。や。  
の。は。子。連。と。捕。り。手。後。藏。り。次。丸。

く。番。相。く。る。子。丸。の。形。く。り。と。材。高。が。違。  
白。丸。の。岩。城。の。家。と。押。込。り。深。倉。の  
執。行。藏。り。成。金。と。の。り。く。り。ひ。ら。り。流。  
團。一。家。人。お。と。早。く。醫。主。丸。と。く。り。子。  
教。主。丸。と。く。り。海。く。折。本。と。く。り。こ。  
始。末。の。り。の。海。く。白。丸。く。り。ひ。ら。り。ま。は。  
は。く。り。く。り。も。た。ま。り。と。教。り。の。大。罪。人  
形。の。悪。人。く。り。成。金。と。文。く。り。岩。城。の。家。

と奈とむ源右衛門の將軍とてつて  
たうきりくく國々の執持藤中常家の  
改事とてありてくく天中とてあり  
めくく帝とてありてくく道徳  
海とてありてくく公家とてありて改  
道とてありてくく天中の事とてあり  
とてありてくく後年とてありて改  
事とてありてくく大合戦とてありて事

事とてありてくく是とてありて事  
交とてありてくく公家  
の事とてありてくく雨洗とてあり  
勅令とてありてくく小治とてありて事  
標とてありてくく後とてありて令  
を國とてありてくく雨洗とてあり  
とてありてくく勅令とてありて事  
とてありてくく是とてありて事





道隆と因及と並出阿の  
勇海かろる事

岩博美就卷拾部

